

所長業務を振り返って

西尾 麻里

私と中国との関わりは、遡ること14年前、2003年の語学留学でした。その後、日本に帰国して就職、再度上海に渡って日系企業での就業を経て、広島上海事務所長業務に従事しはや5年、このたび所長交代の挨拶をさせていただき運びとなりました。僣越ながら、この紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

<広島上海事務所長としての始まり>

まずは、上海市内に現地法人がある広島企業様へご挨拶に伺うところから始まりました。中国進出を目指す企業様だけでなく、すでに進出している企業様との交流・意見交換も重要な業務の一つであるため、とても緊張していたことを覚えています。広島出身ではない私が広島上海事務所長としてどんな話ができるのか、受け入れてもらえるのか、そんな不安でいっぱいでした。しかし、ご挨拶させていただいた企業様はみな、その広い心で私を受け止めて下さり、上海での生活など他愛のない話からビジネスに関わる話まで、とても熱心に話し、そして私の話を聞いてくださいました。「この温かさが広島の風土なのか」と感銘を受けたことをよく覚えています。

<ハッピーメールから見る中国ビジネスの変遷>

このように始まった広島上海事務所長としての業務は、上海の移り変わりとともに変化していきました。

中国ビジネスの変遷は、当時のハッピーメールからも分かります。所長就任当時の2012年後半は、尖閣諸島問題の真っ只中でした。同年10月号では、上海でのデモ活動や日本商品の不買運動、日系自動車メーカーの業績減について取り上げ、中国ビジネスに携わる人々の不安が綴られていました。続く11月号でも尖閣諸島問題に関する記事が掲載され、日系企業が採用説明会を自主的に中止し、中国の就活生へも影響が及んでいるという内容でした。

このような暗い話題を払拭すべく、「日本を盛り上げよう」と頑張る姿を紹介したのが、翌年1月号の記事で、それを境に、連続して様々なイベントを紹介するようになりました。広島企業が単独出展したイベントや、当事務所が出展サポートした観光PRイベント、在上海日本国総領事公邸で開催された日本酒イベントなどについてレポートさせていただきました。

そして、現在の中国を語るうえで欠かせないIT市場については、2012年12月号で初めて取り上げました。上海市の無料Wi-Fiスポットに関する記事でしたが、翌年10月号で毎年11月11日に開催される「双11」独身の日セールを取り上げてからは、関連記事が紙面を飾ることが増え、今現在でも続いています。

※過去のハッピーメールについては、当機構のウェブサイトからご覧いただけます。

https://www.hiwave.or.jp/purpose1/international/hapee_mail/

<広島上海事務所のサポート体制>

そして、在任中の業務を振り返る中で、外すことができない業務の一つが「広島県食品商談会の開催」です。

東アジア最大規模の食品・飲料の見本市である「FHC CHINA 2013」に広島県ブースを出展し、同見本市前日に「日本・広島食品商談会」を単独開催したのが2013年。それから4年連続で見本市に出展し、2018年1月25日には、5年連続となる「日本・広島食品商談会」が開催されます。

当事務所では、現地バイヤーの招聘活動や広島企業の皆様が上海に滞在される際のスケジュールアレンジ、通訳や移動手段の手配などでサポートさせていただき、出展企業の皆様からも温かいご支援をいただきました。

今後は後任として、洲澤 輝（Suzawa Hikaru）が広島上海事務所長を担います。これまでに培った体力とフットワークの軽さを活かし、中国のあらゆる情報にアンテナを立てて、広島県の皆様のお役に立てるよう、引き続き業務に精進して参ります。

これまでの温かいご指導とご支援に心から感謝申し上げますと共に、今後とも広島上海事務所を中国ビジネス発展にご活用くださいますようお願いいたします。

末筆ながら、皆様の益々の発展を祈念いたします。